

座間味島におけるイタチ及び在来種の生息状況

Distribution of introduced Japanese weasels (*Mustela itatsi*) and native species on Zamami Island

中川雅允*・河内紀浩*・渡邊環樹*・木村悟志*

NAKAGAWA, Masanobu KAWAUCHI, Norihiro WATANABE, Tamaki KIMURA, Satoshi

キーワード：外来種、ニホンイタチ、在来種、生息状況、座間味島

沖縄県座間味島に生息するニホンイタチ（以下、イタチとする）は、ネズミ駆除を目的に 1950 年代に鹿児島県より移入された外来種である。イタチ移入後、カエル類、ヘビ類、トカゲ類などの減少が指摘されており、これら在来種への影響が懸念されている。そこで、座間味島におけるイタチ及び在来種の生息状況を把握することを目的に、ルートセンサス及び自動撮影カメラによる調査を行った。また、改良した筒式イタチ捕獲器（以下、筒わなとする）によるイタチの捕獲を行った。

その結果、ルートセンサスにより、イタチを含む哺乳類 3 種（いずれも外来種）、両生類 4 種、爬虫類 8 種（うち外来種 3 種）の計 15 種が確認された。イタチの確認地点は島のほぼ全域で、特に阿真集落周辺や東部の森林域で多く確認された。また、両生類は、シリケンイモリ及びヒメアマガエルが多数確認された一方で、ヌマガエル及びリュウキュウカジカガエルの確認数が少なかった。爬虫類では、在来のトカゲ類としてオキナワトカゲ、ヘリグロヒメトカゲ、オキナワキノボリトカゲ、アオカナヘビの 4 種が確認され、アオカナヘビ以外の 3 種の確認数は非常に少ない結果となった。また、ヘビ類の確認はなかった。その他、外来トカゲ類としてグリーンアノール（特定外来生物）が確認された。

また、自動撮影カメラにより、イタチを含む哺乳類 7 種（いずれも外来種）、鳥類 13 種（うち外来種 1 種）の計 20 種が確認された。イタチの撮影地点は島全体にわたり、ルートセンサスと同様、阿真集落周辺や東部の森林域で多く撮影された。また、イタチ以外の哺乳類として、クマネズミ、イヌ、ネコ、イノシシ（ニホンイノシシまたはイノブタ）、ケラマジカ、ヤギが確認され、特にクマネズミ及びネコの撮影回数が多かった。イノシシは、隣の渡嘉敷島で家畜が逃げて野生化しており、そこから海を泳いで渡ってきたものと思われる。ケラマジカも近隣の島より泳いで渡ってきたものと思われる。また、ヤギは島内で飼育されている家畜が野生化したものと思われる。

筒わなによるイタチの捕獲では、8,529TD（TD：わな日）により計 20 頭が捕獲され、100TD あたりの捕獲率を示す CPUE は 0.234 となった。捕獲地点は島全体にわたり、特に西部から中部にかけて多い結果となった。

以上の結果から、イタチが島全体に広く分布する一方で、在来トカゲ類やヘビ類の生息数が非常に少ないことが示唆された。また、イタチ以外にも野生化したネコが多数確認されており、イタチと同様に在来種への影響が懸念される。さらに、イノシシやヤギ、グリーンアノールなどの外来種も確認されており、これらの種による生態系への影響や農業被害などの問題が今後深刻化する恐れがある。

なお、本調査は平成 26 年度沖縄県地域人づくり事業（マングース等外来種捕獲技術者及び探索犬ハンドラー育成事業）において実施されたものである。